

ともしび

ともに生きる



井上直之
(釋直道)



十月の初めは街の至る所で金木犀の香りがしましたが、今はそれもなくなり、すっかり秋になりましたね。

昨年生まれた娘は、今では歩けるようになりまし。先日「よし、久しぶりに温泉にでも行こうか」と、妻と三人で新潟へ、娘にとつては初めての旅行に行きました。

平日ということもあり、露天風呂付客室が安く取れました。妻も久しぶりの旅行に喜んで、ホテルに着いてすぐ大浴場へ。

私は、妻の方がお風呂から出てくるのは遅いと分かっていたので、部屋の鍵を閉めて、娘と一緒に部屋の露天風呂に入りました。

ところが、そのお風呂の入り口のガラス戸を閉めた途端、なんとその勢いで、内側から鍵がかかってしまったのです。

大声で叫んでガラス戸や窓を叩いても誰にも気づかれず、一時間が経過。その間娘が冷えないよう、湯舟に浸からせては出すの作業の繰り返しでした。

しかし、とうとう娘は何か異変を感じ泣き出してしまいました。

その間も裸のまま明かりのついた窓を見つけてはよじ登って叩いたり、傍から見たらどうしても私は不審者です。

それでも泣く娘を抱っこしながらガラス戸や窓を叩き呼び続け、かれこれ一時間半が経過。娘も泣きながら一緒に窓を叩いてくれました。

その後、さすがにおかしいと思った妻がホテルのスタッフを呼び、ようやく救出されました。

意味は違いますが、これぞまさしく娘との裸の付き合いでした。

そして旅行から帰った夕方、父ちゃんとお風呂に入るのがもう嫌になったのではないかと、恐る恐る湯舟に浸けたら、娘は笑っています。

その顔を見た瞬間、生まれた時は「元氣ならそれだけでいい」と妻に言っていた自分が、お風呂に入るだけで心配する親になっていたことに気づきました。

お知らせ

成道会法要とコンサート

12月11日(日) 午後2時

(正午よりバザーがあります)

修正会

1月1日(日) 午前10時

御正忌報恩講

門信徒会新年会

1月8日(日) 午前11時

立春拝賀式

仏教婦人会新年会

2月4日(土) 午前11時

ただ、この話、今回は笑い話です。みましたが、人によっては笑いではありませんか。わかりませんよね。

ちなみにこれが真冬だったので、吹雪うでしようか。新潟なので、吹雪が吹き、お風呂は温かく、娘が疲れ切ってしまった、私は力づくでガラス戸を割って大怪我をしていたかもしれせん。

もちろん、ホテルだつてわざとやった訳ではありません。それでも具合の悪い娘を見たら、きつと私は女将に荒い言葉を投げつけたことでしょう。

お寺で「ともに生きる」という言葉を聞かれたことがあると思います。

普通は「ともに生きる」と言われたいら、みんな仲良く手を繋いで生きていこうという意味ですよ。

しかし世の中は、容姿も経済力も寿命も社会的地位も平等ではありません。

それなのにすべての人が分かり合い、喧嘩もなく仲良くしようというのは、国際情勢から見てもとても難しいことは、みなさんわかってる筈です。

私も含め人間の欲は消せませんし、今後もホテルであのようなことがあればまた頭にくるでしょう。だから私は今まで「ともに生きる」という言葉はただの綺麗事、絵空事だろうと思っていました。

しかし、私は大きな間違いをしていたことに気づきました。罪悪深重である私たちを、その姿のまま救うのが阿弥陀さまだと、親鸞聖人はおっしゃいました。

ある先生が「どんなに分かり合える同士でも寝たら同じ夢は見れん。しかしそれをお互いが理解することでお互いが分かり合える」と語られました。

どんなに善人のふりをしようとも、阿弥陀さまは私たちの心の底を最初から見抜いておられ、だからこそ救いたいという願いを、私たちにかけてくださっているのです。

みんなで無理して正しい人間になつて仏さまに喜んでいただくというところが「ともに生きる」ではなく、お互いの欠点をお互いが分かりあつていける世界こそが「ともに生きる」ということではないでしょうか。

良い人でいたいけれどもなかなかそれができない。そんな私たちにこそ「大丈夫だぞ 必ず救うぞ」

と仏さまは微笑んでくださっているのではないのでしょうか。

報恩講はそんな仏さまの心をあきらかにしてくださった親鸞聖人のご恩を偲び、今後も仏さまとともに歩ませていただくことを気づかされていく、大切な法要だと思えます。



彩弥 1才5ヵ月

ご本山からの感謝状

十月一日より、京都西本願寺にて、第二十五代専如門主・伝灯奉告法要が厳修されています。

昨年末、ご門徒の皆さまには、「宗門総合振興計画」へのご懇志を納めていただきました。ご本山より感謝状が届きました。



急なお祈いにも関わらず、気持ちよくご協力いただきましたこと、御礼申し上げます。

如来さまの
おはたらき

井上由真



九月二十六日(火)、大田原市の正浄寺で「北ブロック寺族女性・一日研修会」が開催されました。

朝寝して 夜寝る前に昼寝して その間には居眠りす

西山良智ご住職のご法話は、「これ私のこと？」と笑ってしまったり、こんな短歌の紹介から始まりました。お話は、病院で寝ていたら殺されてしまう恐ろしい時代ですと、世間を騒がせているニュースに続きます。

本題に入り、お寺の歴史を聞かせていただきました。

正浄寺に伝わる「川越の阿弥陀さま」、川向こうの親鸞聖人が筆で空中に何やら描かれたものが、篤信の念仏者・孫八の持つこちら側の布にハッキリと描かれ、それは「阿弥陀さまの尊像」でした。その尊像を安置するために、孫八が御堂を建立したのがお寺の起源だそうです。

これを単なる作り話と言うのは簡単だが、その言い伝えの、表に出ているものの裏に隠れているものは、ただごとではない念仏の教えであると、語られました。

お寺とは、念仏繁盛のための日々を営んでいる、という言葉が胸に残ります。

自分の手柄によって悟りをいただくのではなく、すべて阿弥陀さまのおはたらきによるもの。我々のすべき修行を阿弥陀さまの側で積んでくださり、その修行が成就して南無阿弥陀仏となられました。我々のできることは「ありがとう」しかないのです。すべて御恩報謝の日々のあけくれ、それしかありません。しかし、それすら上手くできない我々です。

「凡夫」といふは、無明煩惱われらが身にみちみちて、欲もおほく、いかりはらだち、そねみ、ねたむころおほくひまなくして、臨終の一念にいたるまでとどまらず、きえず、たえずと、水火二河のたとへにあらはれたり。(一念多念証文)

そんなこの私が、いのち尽きる時には、阿弥陀さまのひとりばたらきによって救っていただくのです。

仏教壮年会
第2土曜日・午後6時

仏教婦人会
16日・午後1時

編物教室
第2・第4火曜日 午前10時

※住職指導による、鶯(混声)と新樹会(女声)の仏教讃歌の練習があります。(不定期)

「如来さまのおはたらき」のご法話は、私に信心についての再確認をさせてくださいました。

ご住職に、獄中の少年の短歌を教えていただきました。

故郷の 栗も胡桃も熟れたれば お前を思うと 母の文来る

呼びたくも 呼ぶことならぬ ガラス戸に 息吹きかけて 母と書くなり

親の心が彼に届いたから「母」と書かせたのです。

阿弥陀さまの願いが届いたから、南無阿弥陀仏と口から出るのです。如来さまのおはたらきを喜びながら、感謝の日暮らしをしたいと、そんなことを思いながら、那須のきれいな空気を胸いっぱい吸い込んでいました。



バザーのお知らせ

成道会法要の日、正午からバザーが開催されます。売上金は、仏婦ダーナ献金に送られます。

手作りのお弁当やケーキ、おはぎ、椎茸昆布、手打ちそばや石釜で焼くピザもあります。

編み物教室の皆さんによる手編みのセーターやベスト、小物等、見るだけでも楽しいです。

品物をご寄付いただく場合は、一週間前までに、お届けください。

十月十八日(火)・十九日(水)、茨城西組・実践運動一泊研修会(仏婦と寺族女性の連盟結成二十周年の記念行事)が開催されました。草津にある、国立ハンセン病療養所・栗生楽泉園と藤岡市の西連寺で、学びを深めた二日間でした。



草津にて足湯の
仏婦のみなさん

住職の音楽活動

現在、築地本願寺・楽友会の指導をさせていただいております。

今年も、11月6日(日)には、お寺からバスを出して、「報恩講コンサート」を鑑賞いたします。

午前中はスカイツリーの展望台から、東京の景色を楽しみます。昼食は築地本願寺・紫水のかまくら弁当をいただきます。参加希望の方はお寺までご連絡ください。

築地本願寺の報恩講、11月13日(日)には、音楽法要の宗祖讃仰作法(10時)と楽友会コーラス(12時45分)の指揮を勤めます。

12月8日(木)、築地本願寺・成道会コンサート、2月7日(火)、和田堀廟所・如月忌などでも指揮をいたしますので、お近くの方は、お参りいただきたいと思

います。

編集後記



駅前「おがわ菓子店」のご主人、小川敦久さんが、往生されました。宗願寺では、長い間行事のお赤飯やお菓子を頼んでいましたので、今、とても淋しい気持ちです。

報恩講のお赤飯、時には大粒の金時豆で作っていたり、行事によっては、黒豆や白いんげんでお願ひしたこともあります。

療養生活に入られてからは、仏婦の皆さんと一緒に、自分たちで炊いて、「あっちゃん」が元気になるのを待ちました。自分よりも若い方の死は、「順番ではない」と常に語っている私なのに、衝撃を受けます。

お寺の永代経のお供物を、一緒に考えたりしたのですが、それも叶いませんでした。彼が心を込めて作ったお菓子を、もういただくことはできないけれど、折に触れて思い出すことでしょうか。

今年も炊く予定の、金時豆の淡いピンク色のご飯、おかげで上手になりましたよ。お浄土から、見守ってくださいなね、とお念仏申します。

合掌



発行・宗願寺門信徒会
編集責任者・井上由真
(由美子)

カット・大建弘子
(印刷所・阿部印刷)